

行政常任委員会報告

令和5年1月16日

午前10時30分開議

委員会室

◎日程

1 土木水道課

(1) 滝ノ上地区における漏水対策工事について

(2) 令和4年度水道事業会計補正予算について

◎出席委員（6名）

今川和哉君

君島孝夫君

小林尚文君

千葉勝君

熊谷桂子君

高間澄子君

◎欠席委員（1名）

本田靖人君

◎出席者職氏名

議長

大山修二君

副市長

本間和彦君

総務課長兼市民課長

芝木誠二君

上下水道担当課長

三浦護君

上下水道課主幹

後藤礼充君

事務局長

佐藤浩一君

書記

山下倫弘君

書記

相澤由貴君

【委員長挨拶】

(今川委員長)

開会に先立ちまして、みなさまにお願いがございます。

携帯電話等をお持ちの方は、電源をお切りいただくか、マナーモード

に設定し、ご利用はお控えください。

ただいまから、行政常任委員会を開催いたします。

本日の出席委員は 6 名であります。欠席委員は 1 名であります。本田委員から入院中のため欠席するとの届出がありましたので、報告いたします。ほかに議長が出席されております。

理事者側からは、副市長、総務課長のほか、説明員として、課長等が出席されることとなっております。

本日の委員会の進め方についてであります。1 月 14 日付市民課長の人事異動がありましたので、初めに挨拶を受け、その後、土木水道課の報告を受け、これに対する質疑を行って参りたいと思いますが、そのように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議がありませんので、そのように取り進めて参ります。

【市民課】

(今川委員長)

それでは、芝木総務課長よろしくお願いします。

(総務課長)

おはようございます。

この場を借りて、1 月 14 日付の人事異動で、市民課長を兼ねてということで拝命いたしました。

当面、総務課長、選挙管理委員会事務局長、そして市民課長の三足の草鞋でやって参りますので、よろしくお願いいたします。

【土木水道課】

(今川委員長)

それでは、土木水道課より報告を受けて参ります。

上下水道担当課長。

(上下水道担当課長)

資料にお示しのとおり、滝ノ上地区における漏水対策工事についてご報告を申し上げます。

1、経過及び工事状況についてですが、昨年 10 月 14 日に滝ノ上神社付近の国道 274 号線の下で漏水があることが判明いたしました。この対策として、布設が国道直下ということもあって、そこの修繕ではなく、新たに 218 メートルの配水管の布設を行って、この対策を行うことといたしました。

それに関して、予算が未計上であったため、第 4 回定例市議会において

1,000 万円の補正予算をお認めいただいたところでございます。

ここまでの前回の委員会でご報告させてもらっているところです。

その後、12 月 9 日に工事請負を 924 万円で契約いたしまして、12 月 12 日から早速工事に着手し、順調に予定どおり進んでいたのですが、布設区間の 4 割程度の掘削を行った時点で、想定外の岩盤が露出しまして、施工スピードが一気に低下するという状況に至りました。

2、その岩盤露出による工事の影響でございますが、次ページの図面を参照いただきながらご説明したいと思います。滝ノ上地区の図面ですが、右手が紅葉山で、左手が川端のほうになります。

実線が今、配水管があるところで、今回この実線の中央付近になりますかね、国道をまたいでいるところで漏水が発生しているということで、これを迂回せず、直線的に点線の部分を新しく配水管を布設して、措置をするという工法を取ってございます。

右側の紅葉山のほうから工事を進めて、掘削をずっと進めてきたのですが、4 割ぐらい行ったところで岩盤が出てきた。四角で囲っている左側、6 割部分ぐらいがほぼ岩盤ということになっていまして、現在も年明けに工事を再開してゆっくり工事は進めているのですが、そのような状況に至ったということです。

それで、当初予定していた設計内容等、大幅に内容が変わってきまして、工事内容が非常に大きな増加になるということが判明いたしまして、予算不足が見込まれることとなったところから、補正予算のお認めをいただかなければならないという事態に至りました。

その増額となる経費の内訳ですけれども、①新たな重機、岩を砕く「ガガガ」と砕く機械があるのですが、そういったものが新たに必要になった。工事速度が落ちるので、工事日数が増加したことによって、いろいろな面での経費が増嵩することになります。

そこに加えて、②想定しなかった岩盤の産廃処理、掘った土は基本的には埋め戻すのですが、岩盤、岩だと埋戻しができないということになりますので、一定程度は産廃処理をすることになったり、埋められない土の分の土砂を新たに買ってきて埋戻しに使ったり、それらに関する運搬費用とかが大きくなる、これが非常に大きな、金額的にも大きな影響を及ぼすことになります。

①、②の直接工事費が増嵩することによって、これに付随する一定程度の割合での管理費等が高くなって不足するというに至りました。

状況としては、そういうことです。

委員長、2 点目の補正予算のほうも続けてよろしいですか。

(今川委員長)

続けて大丈夫です。

(上下水道担当課長)

よろしいですか。

それで、幾らぐらいなのかというところなのですが、2点目の令和4年度水道事業会計補正予算について、続けてご説明いたします。補正予算調書を参考資料として付けてございます。

1 ページ目は、地方債の補正でございまして、限度額を配水施設整備事業費ということで、今後の工事費に予算の不足を来さないように、限度額を1,200万円補正します。

それから、資本的収入及び支出の収入の部分では、建設改良事業債を同じく1,200万円。支出の部分では、配水施設整備事業費を同じく1,200万円補正をさせていただきたいということで、今、手続をお願いしているところでございます。

なお、漏水が発覚してから、3か月程度期間が過ぎているわけですが、漏水の規模としてはそう大きくない規模でございまして、対象戸数と影響を受ける可能性のある戸数は20戸程度あるのですが、漏水時から現在に至るまで断水ですとか、大きな地域住民への影響は起こっておらず、もう少し2月は工事が進むことになりましたが、大きな影響を及ぼすことはないというふうに考えてございます。

以上です。

(今川委員長)

これより、報告に対する質疑を受けて参ります。

高間委員。

(高間委員)

何かこの図を見ると、最初に工事をしたときにはこの岩盤を避けてこの工事をしているのですね、わざわざ。これを見るとそうですよね。岩盤の部分を避けて、それが国道にかかったという図ですよね、最初の工事、もともとある工事が。

だけれども、わざわざこの岩盤、最初にそういう目的でずらして、水道管を埋設したのだと思うのだけれども、今回、ここが漏水になったから、あえて厳しい岩盤のあるところを工事しなければ、これ、ちょっとこの岩盤を避ける工事というのはできないですか。

(今川委員長)

上下水道担当課長。

(上下水道担当課長)

高間委員のご質問にお答えいたします。

基本的に、一定程度大きな工事だと内容にもよりけりですが、基本設計をやって、実施設計をやって、本工事というのが大きな工事の毎度の手順になるのですが、今回の場合、緊急の漏水対策ということもあって、現地踏査だけで事前の地盤調査はやっていないのですね。

それで、ちょっと言い方は悪いのですが、掘ってみたら岩盤が出てきてしまったという結果論的な部分になっていることは事実です。

(今川委員長)

高間委員。

(高間委員)

だけどね。こういうやり方、行き当たりばったりのやり方では、これから先も、夕張としてはいろいろなところで、今までもこの何年間、ずっと大きな漏水が出ているわけだから、こういうこれだけお金をかけてやる、何かこれが最高の手なのかなという、ちょっと疑問があるのだけれどもね。こういうやり方をしていると。

(今川委員長)

上下水道担当課長。

(上下水道担当課長)

もともとの今実線の部分が国道を二回またいでいるというふうになっているのがご疑問の一つなのかなというふうに思うのですが、今こういう状況になっているのですが、この図面にはないですが、この実線の部分から以前は駅の JR 線をまたいだ下のほうと言ったらいいいでしょうか、こちらのほうに水道管を昔は流していたのですね。そういう経過もあって、これ、道路をまたいでこちら側に配水管が来ていたという経過がある。それが JR 線をまたいだ住宅地のほうは、今は廃止しているという過去の状況がありました。

(今川委員長)

よろしいですか。

高間委員。

(高間委員)

よろしくはないですけど、これから夕張の先のことを考えると、何かもう少し手だてというのが、ほかの管もかなり漏水というか、鉄管の寿命というのはもう過ぎている状況だから、これからどんどんそういうことが起きてくる可能性があると思う。

だから、やはりもう少し何か抜本的な、行き当たりばったりでも少額なお金でできるならまだ分かるのですけれども、これだけ多額のお金をかけて 1

か所だけしかできないということを繰り返されたら、やはりちょっと納得いかないかなと思うので、今後、もう少し水道管のことについて、もう少し土木水道課に対しては前向きな検討をしていただけたらなという、何か出てきたから応急処置ばかり繰り返すだけでなく、もう少し計画的な取組をしていただきたいというふうに思っています。

(今川委員長)

上下水道担当課長。

(上下水道担当課長)

高間委員のご質問、ご意見にお答えいたします。

1 点、前回の委員会の際に少しご説明したのですが、今回、なぜ 218 メートルも延長する方法を取ったかということ、一つは国道 274 号線の直下であって、そこを掘削して工事するのは非常に危険を伴い、あるいは間違った場合に地域住居に非常に長期にわたる断水を生じさせる可能性がある。なおかつ、道路管理者、開発局になりますが、274 号線を一定程度止めて工事するという非常に困難性も見込まれ、時間もかかるということを総合的に勘案して、今回はこういった 218 メートルの管を新たに布設するという工事を取ったということは、ご理解をいただければなというふうに思います。

(今川委員長)

高間委員。

(高間委員)

これ、例えば国とか道とかのこういう打合せというか、こういうことで夕張はこうなっているというようなことはしているのかどうか。

(今川委員長)

上下水道担当課長。

(上下水道担当課長)

もちろん、今回の工事に関しても 274 号線の歩道のところは掘削するので、歩道といえどもそういったことに手をかける場合は、開発局の事前の申請や許可が必要になっておりまして、そういった手続は必ず必要になります。

繰り返しになりますが、274 号線、道路を止めるということになると、もっとハードルが高くて、工事の区間や道路を止めること、その対策に関する費用、時間等はさらに大きなものにはなったというふうには思っています。

(今川委員長)

よろしいですか。

ほかにございませんか。

熊谷委員。

(熊谷委員)

岩盤の、今、高間委員のお話のことなのですからけれども、岩盤はそれ相応の広さなり、高さなりがきっとあると思うのですよね。千鳥ヶ滝もあんなふうに入り組んだ地層になっているから、夕張市のどこかにそういう資料があるのだと思うのですよ。

というのは、もう十何年か前に産廃の話が出たときにも、そういう地層を調べて、研究者の方はちゃんとそういう資料を持っていたのですよね。だから、そういうものが多分夕張市でもどこかにそういう地層の資料がきっとあるのだと思うのです。

最初の段階でそういうものをきちんと精査した上で、計画をつくってれば、応急措置的にはならず、最良の方法になったと思うので、次からはきちんとそういう資料があると思うので、ぜひそういったことも見ていただいて、計画を立てていただければいいのかなというふうに思いました。

以上です。

(今川委員長)

答弁はよろしいですか。

(熊谷委員)

ありましたら、ぜひ。

(今川委員長)

上下水道担当課長。

(上下水道担当課長)

ちょっと同じ話になってしまうのですが、そういったことも踏まえて、例えば新しい管をやる工事をしたいですと、去年紅葉山でやったような、その場合は事前に調査をして地質も大丈夫なのかどうなのかという、基本設計、実施設計、地質調査をやった上で本工事に行くのですが、今回に関しては急いだということ、漏水を止めることが第一ということ踏まえて、現地を歩いて水道管を通せばいいねというふうなことはやったのですが、地質調査までは今回に関してはやっていなかったというのは実態でございます。

(今川委員長)

熊谷委員。

(熊谷委員)

私がお話ししたのは、調査も、あなただけでは分からない部分というのはありますよね。だから、これまでの夕張市を調べた地質的なそういう資料があるのではないかということをお聞きしたのです。

(今川委員長)

上下水道担当課長。

(上下水道担当課長)

完全な答弁にはならないのですが、全市的にそういった地盤の調査をやっていた記録があるというのは、今の段階ではちょっと確認できません。

(熊谷委員)

分かりました。

(今川委員長)

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(今川委員長)

ないようですので、これで土木水道課を終わります。

【閉会】

(今川委員長)

以上で、本日予定しました案件は全て終了しましたので、行政常任委員会を閉じます。

午前 10時47分 閉会

夕張市議会委員会条例第 27 条第 1 項の規定により、ここに署名する。

夕張市議会行政常任委員会

委 員 長

今 川 和 哉
